

【World Wildlife Day】

3月3日は国連が定めた「世界野生生物の日」(WWD: World Wildlife Day)です。世界野生生物の日は、ワシントン条約(CITES: the Convention on International Trade in Endangered Species of Wild Fauna and Flora)が1973年3月3日に採択されたことを記念して、2013年に国連が制定した記念日です。世界中の野生動物や植物が私たちの生活や地球環境に貢献していることを祝う日とされています。

今年2023年は、CITESの採択から50周年となる記念の年のため、「Partnerships for wildlife conservation」をテーマに、世界中でWWDを祝う様々なイベントが行われています。

日本でも各地の動物園などでも野生生物の日を記念した解説ツアーや記念イベントなどが行われています。

当館では日本の里山で暮らす野生動物の標本を多数展示しています。興味のある方はぜひご予約の上ご来館ください。

#WorldWildlifeDay #WWD2023 #CITES

■United Nations World Wildlife Day 3 March

<https://www.un.org/en/observances/world-wildlife-day>

国連の世界野生生物の日の公式サイトです。

■World Wildlife Day 2023 Global Event

<https://www.wildlifeday.org/en/events>

国連とCITESが共同で運営している世界野生生物の日の特別サイトのイベント紹介ページです。各国で行われる世界野生生物の日の記念イベントがマップで表示されています。

■恩賜上野動物園 2.開園140周年企画「もっと身近に！SDGsフェア」を開催します

<https://bit.ly/431nuto>

上野動物園では世界野生生物の日記念企画「君もアニマルレンジャー！密輸や密猟から動物たちを守ろう！」を開催するそうです。

2023年3月2日の記事



- ① World Wildlife Day 2023の公式ポスター
- ② 自然系展示室で展示している剥製①
- ③ 自然系展示室で展示している剥製②
- ④ 自然系展示室で展示している剥製③
- ⑤ 自然系展示室で展示している骨格標本

【大学史の紹介22】日本獣医畜産大学から日本獣医生命科学大学へ

前回の大学史の紹介では、本学が日本獣医畜産大学に昇格した当時の関係者についてご紹介しました。今回は、主に日本獣医畜産大学時代の大きな出来事についてご紹介します。

日本畜産大学が開校したのは戦後まだ4年という時期で、急速なインフレで基本財源の価値が下がり、また戦後の経済的な逼迫により大学の入学志望者が激減し、経営難となっていました。本学を含め当時多くの私立大学が経済危機に陥り、特に単科大学が合併統合して総合大学となる傾向が現れる中、本学は同じく私立大学である日本医科大学との合併を決断し、1952年に日本医科大学の傘下に入りました。

その後本学は1959年に大学院獣医学研究科を設置し、一時期一学科のみとなっていた獣医学部にも1960年代には畜産学科と畜産食品工学科を併せた3学科を擁する大学として発展しました。平成年代に入ってからでも大学は時代に併せて変化を続け、2005年には獣医学部に獣医学科と獣医保健看護学科、応用生命科学部に動物科学科と食品科学科の2学部4学科を擁する現在と同様の体制となり、2006年に本学の歴史の中でも最長となる57年間続いた日本獣医畜産大学の名を日本獣医生命科学大学へと改称しました。その後も本学の歩みは続き、今年の本学が開学してから142年となりました。

現在の本学と至るまでの歴史を駆け足で振り返ってきたシリーズは今回で終了となります。これからも不定期ではありますが、大学の歴史を紹介する記事をアップいたしますので、どうぞお楽しみに。

■前の記事はこちら：大学史の紹介21(2023年1月19日掲載)

<https://bit.ly/3IXDUva>



- ① 大学昇格を記念して作成された皿。現在歴史系展示室に展示しています。
- ② 日本獣医畜産大学時代(1967年頃)の本学一号棟を南東側から見た様子。周りに今はもうなくなった他の木造校舎が見えます。
- ③ 現在の本学一号棟を南東側から見た様子。1枚前に紹介した写真(1967年頃撮影)を撮影した当時から校舎の配置が変わっているため、同じ画角では撮影ができなくなっています。左下側の黒い部分は1984年に一号棟の向かい側に建てられたD棟の影です。
- ④ 本学の創立140周年を記念して発行された記念誌。非売品でこちらも歴史系展示室に展示されています。

2023年3月9日の記事

【活動日誌122】令和4年度学位記授与式

本日3月9日は本学の学位記授与式です。博物館スタッフ一同、心よりお祝いを申し上げます。

今年度から保護者の方も校内に入れるようになったこともあり、数年ぶりに賑やかな雰囲気となっています。当館は通常であれば見学に予約が必要ですが、学生と教職員、そして学位記授与式に参列された方であれば、本日は誰でも自由に見学できるようになっています。卒業生の皆様、ご参列の皆様、ご来館をお待ちしています。



- ① 一号棟から見た中庭の様子。天候にも恵まれ、晴れやかな雰囲気となっています。
- ② 校内に複数箇所、開館を知らせる看板を臨時で設置しました。

【お知らせ】本学教員がNHK「ダーウィンが来た！」に出演します

獣医学部獣医保健看護学科の山本俊昭教授(獣医保健看護学応用部門 保全生物学研究分野)が明日3月12日(日)にNHK総合にて放送される「ダーウィンが来た！」に出演します。

12日の放送では日本テレビの人気番組「ザ！鉄腕！DASH」と共同で、東京の海に突如現れた500頭のクジラや長さ数kmに及ぶイワシの大群の謎に迫ります。山本先生は三宅島に現れたザトウクジラの潮吹きに含まれる鼻水のDNA鑑定を担当しています。ぜひご覧ください！

#ダーウィンが来た #鉄腕DASH

放送日時：令和5年3月12日(日) 19時30分～20時00分

放送局：NHK総合1

番組名：ダーウィンが来た！「鉄腕DASHとコラボで調査！海の大異変」

<https://www.nhk.jp/p/darwin/ts/8M52YNKXZ4/>

※放送後、以下サイトからもご覧いただけます。

■NHKプラス(無料)(放送開始～3月19日(日)19時30分まで)

<https://plus.nhk.jp/>

■NHKオンデマンド(有料)(3月13日(月)～3月26日(日)まで)

<https://www.nhk-ondemand.jp/#/0/>

【活動日誌123】掛図の調査を行います

当館では獣医学教育用掛図の収集・調査・保管を行っています。現在までに、掛図120点とポスター 2点を対象に専門業者による調査を実施し、この調査の結果を踏まえて5点の掛図の修復と1点のレプリカ作成を実施しています。これまでの活動の成果は現在開催中の企画展「2022年度企画展 獣医学教育用掛図展～獣医解剖学の系譜と本学の教育～」で紹介しています。

今年度は本学の解体予定の校舎の一室から見つかった掛図22点を収集しましたが、表装の破損やカビの付着が判明しており、劣化の進行が危惧されています。そこで、今年度収集した掛図22点中17点を対象に、専門業者による調査を実施することにしました。

先日は、調査に先駆けて掛図1点1点に番号を振り分けて記録用の写真を撮影し、保護のため薄葉紙と呼ばれる紙でくるむ作業を行いました。その後、調査を担当している業者の方とともに、掛図の運搬のための梱包作業を行いました。

今後は、掛図の採寸・写真撮影・材料と画材の把握・損傷劣化状態のチェック・ドライクリーニングが行われる予定です。新たな発見がありましたらfacebookでも紹介したいと思います。

(学芸員 石井)

■【活動日誌116】新たな掛図の収集

<https://bit.ly/3GaAm7d>

校舎の一室から発見された掛図の詳細はこちらの記事で紹介しています。

■展示紹介 企画展示室

<https://www.nvlu.ac.jp/universityinstitution/004/about/exhibition.html>

企画展の詳細はこちらで紹介しています

※見学には事前のご予約が必要です

※2023年5月末終了予定

2023年3月16日の記事



- ① 1点ずつ仮番号を付け、薄葉紙でくるむスタッフ。
- ② 調査を依頼した業者の方とともに輸送用のダンボール箱に掛図を移しました。
- ③ 調査の対象となる掛図の例。全体にカビによる色素が沈着してしまっている。

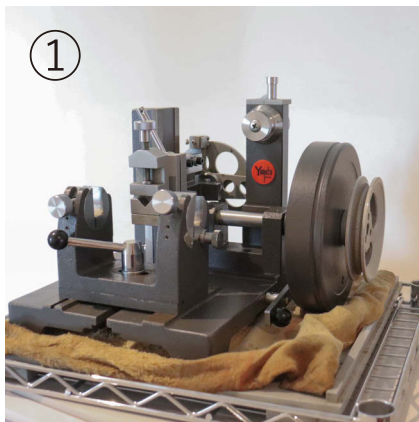
【活動日誌124】マイクロトームの調査

当館では、獣医生命科学に関連した実験器具の収集を行っています。学内の教職員に資料の収集について呼びかけたところ、動物生産科学研究室から古いマイクロトームを移管していただけることになりました。マイクロトームは細胞などの物体を顕微鏡で観察するために薄く切るために使用する機械で、学内では主に病理検査などに用いられています。残念ながら研究室にはマイクロトームに関する情報が残っていないとのことだったので、マイクロトームを製造・販売している大和光機工業株式会社に情報提供について相談したところ、実物の状態を確認してもらえることになりました。

当日は移管予定のマイクロトーム1台と、博物館開館当初に収集されたマイクロトーム3台の状態を確認していただき、それぞれの機種の特徴や、保管する上での注意点を教えていただきました。また、各機種の手動を確認してくださり、4台中2台は、現在でも使用可能な状態であることがわかりました。

これらの機種は今後も保管を続け、展示などで活用したいと考えています。

(学芸員 石井)



- ① 移管予定のマイクロトーム：通常の製品であればハンドルが付いている部分がプーリー(ベルトからの動力を伝えるための部品)になっている。正常に動作することが確認された。
- ② 開館時に収集されたマイクロトームのうちの1台：刃をスライドさせるたびにベルがなる作りになっているが、現在の製品ではそのような機能はない。正常に動作することが確認された。
- ③ 動作確認の様子

2023年3月30日の記事

【お知らせ】館名が変更となります

日本獣医生命科学大学附属ワイルドライフ・ミュージアムは、2023年4月1日をもって、館名を「日本獣医生命科学大学附属博物館」に改めることとなりました。

詳細は4月1日に本学公式サイト 博物館ページにて発表いたします。

■館名変更の概要

新館名：日本獣医生命科学大学附属博物館

英語表記：Nippon Veterinary and Life Science University Museum

変更日：2023年4月1日

■日本獣医生命科学大学公式サイト 博物館ページ

<https://www.nvlu.ac.jp/universityinstitution/004.html/>